

0. 登録番号 d-018

1. 提案のタイトル

未来への希望とノスタルジーが邂逅する風景

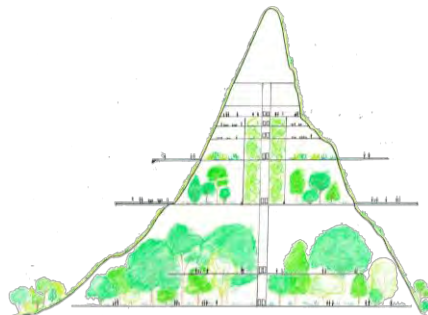
2. 提案の趣旨

現代日本はストレス社会と言われており、無機質な生活環境に対してストレスを抱く人は多い。そんな現代人にとって一息つける心の拠り所となる風景は、本提案では緑豊かで自然と調和したどこか懐かしい風景であると定義した。近年、都市緑化の医科学的効果の実証研究が行われているが、これはストレスの多い都市生活で緑によるストレス緩和が求められている社会的風潮の影響である。しかし山や海といった大規模な自然景観を都市部に造成することは困難なため、都会では定義付けたような懐かしさを感じる景観を簡単に見ることができない。そのため本提案では、ストレス社会における人々の心の拠り所となりえる、自然原風景を万博会場北西部に創出することを主な目的とする。それに加え、緑豊かな会場北西部と近未来的空間であるパビリオン地区を違和感なく繋ぐ、新時代のランドスケープデザインについて着想を述べていく。さらに前述の懐かしさを感じる風景に加え、未来への希望を抱くような新デザインを散りばめた会場を目指す。一見正反対な懐古の感情と夢を描く感情の共存を本提案のタイトルとする。

2025 大阪・関西万博の基本テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」である。テーマに則して、ストレスなく心身共に健康に過ごせる緑地空間の在り方について着想を述べる。山や海辺、林といった今まで都市部に見られなかった雄大な自然風景で緑環境の充実を図り、緑を間近で実感できる体験と解放感を来場者に与える。

また国際目標 SDGs の目標達成が推進されている今、日本は技術先進国としての貢献が求められる。本提案でも社会環境の向上を目指したデザインを組み込んだ。例を挙げると、陸上資源の利用促進と持続的な利用の項目において、新たな建築材として注目されている竹材を施設に利用している。さらに近代的なエネルギー確保の項目において、発電施設の観賞価値を高めて風景デザインの一部とする等、幾つかの試みを提案に盛り込んでいる。

3. アピールポイント



万博会場北西部に高さ約100m、底面の直径約200mの山を造成する。山は風景として眺めるだけでなく、内部が階層構造になっているため万博来場者を収容する能力もある。単純な山とは異なり、強化ガラス製の展望テラスを中腹部に設けているのが特徴である。雄大な自然と人工物が融合した斬新なデザインとなっている。